

ITで産業構造が変わる

ポイント

産業界では、インターネットの活用、経済のグローバル化への対応とそれに伴う規制緩和などにより、すでにIT革命が進んでいる。

グローバル化

国際化というよりも、世界が同じ基準によってビジネス活動すること。

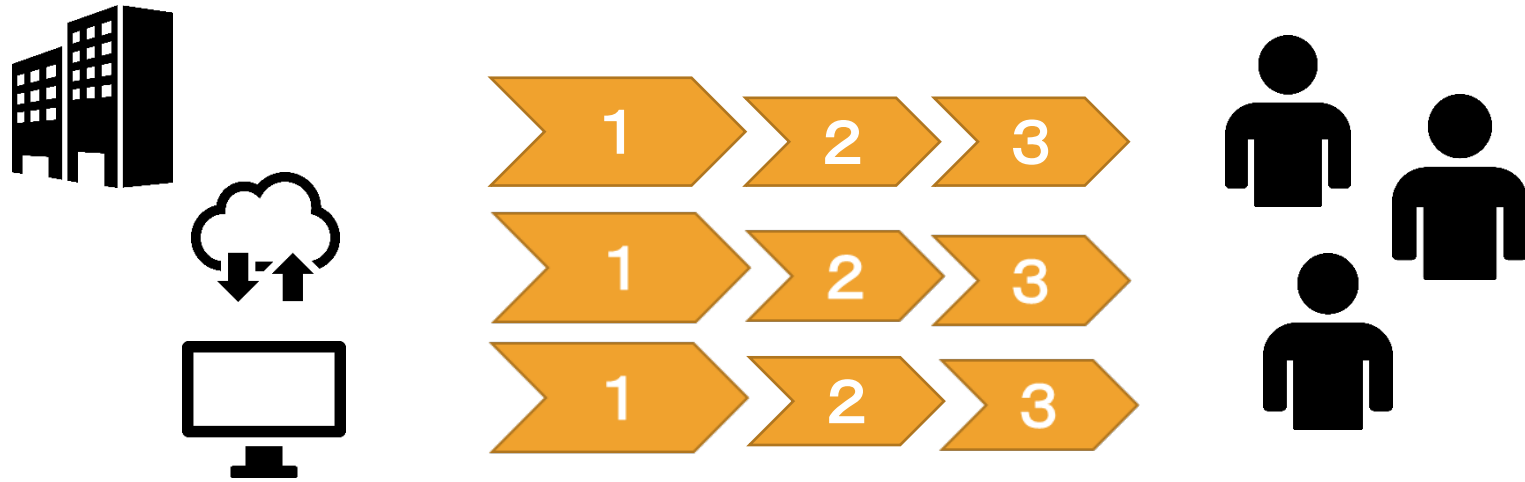
インターネットが大きく影響。

メガ・コンペティション

グローバル化により、世界中が競争相手になり競争が激しくなったことを指す。

デ・コンストラクション

バリューチェーンの再構築のこと。



経営を行う上で通らなければいけない様々なシチュエーションを
異なった視点から観察して分析する。



新規事業や新しいビジネスモデルを生み出せる可能性がある。

デジタル・オポチュニティ

ITに関するビジネス・チャンスのこと。

インターネットの世界は中小企業が大企業と互角に戦える環境だといわれている。

eビジネス

電子商取引により顧客との関係を変えるなど、インターネットを中心とした情報技術を用いて企業の業務を改革すること。

インターネット・ビジネス、サイバー・ビジネスともいう。

インターネットによる業種・業態の変化

インターネットの普及と規制緩和により、新規業種の創出や異業種からの参入が盛んになってきた。

①新規業種の出現

インターネットが普及したから出現した業種



Yahooや楽天市場など

特徴：若い人が個人ではじめて大きく成長したケースが多い。

新しい分野に挑戦して創業することをベンチャビジネスというが、インターネットはベンチャビジネスに適した分野である。

②既存業種の業態変化

カタログを配布したりテレビなどで広告して手紙や電話で注文を受ける方法

インターネットを
利用

インターネットのサイトにカタログを掲載し、その画面で注文できる

インターネットの普及により、新しい方法でビジネスを行う新業態が発生してきた。

オンライン書店

アマゾン・コム
の成長、現状については、図書だけでなく、音楽CD、ビデオ/DVD、ゲーム、ソフトウェア、ギフト、家電などの多彩な商品を取り扱う総合オンライン小売店になっている。


パソコン販売

部品メーカーや宅配業者と情報を共有して納期短縮とコスト削減を図る**デル・モデル**を構築して、世界2位のコンピューターメーカーに躍進。**デル・モデル**は、現在ではSCM(サプライチェーン・マネジメント)として、製造業で広く採用されている。

金融業界

銀行、証券、保険などのこと。カネというモノよりも、情報の性格の高い商品を取り扱っているため、ネットワークでの商取引が広く行われていた。

現在では...

- ・銀行での振込業務や残高確認がインターネットでできる。
- ・株の取り引きをインターネットで行う  すでに一般化

③異業種からの参入

インターネットの世界では、店舗規模に関係なく業務ができ、業務の仕方が新しいため、既存のノウハウよりも新しいアイデアが重要となる。



そのために、銀行・証券・保険などの金融業界が参入してくる。



ソニー銀行

Rakuten 楽天銀行



新生銀行



PayPay 銀行

④既存企業の業態拡大

バーチャルな世界店舗とリアルな世界の店舗での戦略をうまく組み合わせるクリック・アンド・モルタルという手法が、これからの販売戦略の基本になると思われている。

製造業でも、インターネットを用いての販売や調達の幅が広がった。自社単独で行うのではなく、同業者や業界全体が共同してインターネットの取引をするようになった。

多くの発注者や供給者が共通のサイトでオンライン取引をするサイトを、マーケットプレイスという。

業界の変化

①電子商取引の発展

EC(Electronic Commerce) :

インターネットなどのネットワークを用いて商取引すること。

それには、

B to B(Business to Business) : 企業間での取引

B to C(Business to Consumer) : 企業体消費者

に区分されるが、その大部分を B to B が占めている。



どちらも今後急速に成長されると予測される。

②過去の資産が負債に

- 預金額が大きいことが銀行の能力を表す
- 全国に多くの支店や店舗を持つことが預金者獲得に効果がある

↳ 有力な銀行

ところが、店舗窓口、ATM、インターネットでの処理の費用を比較すると...


インターネットによる処理が安価なため、店舗を少なくしてインターネット取引を増加させることが銀行経営で重要な戦力となった。

③系統・下請構造の崩壊

日本の製造業では下請によるピラミッド構造となる。

下請企業では 親企業から継続的に仕事がもらえる。
資金的な援助や技術的な指導を得られる。

親企業では 品質の高い部品が安価で得られる。



グループとしての
競争力を高めてき
た

販売分野では 車種や地域で指定した関係会社を持つことで、効果的な販売と
価格の維持などを円滑にすることができた。

下請や関係会社などをまとめて  系列 という。

ところが...

インターネットで部品調達ができるようになる



品質・価格・納期などの取引条件が
世界中の部品メーカーの中から最も適切なメーカーと取引できる



利点であった系列内取引が不利

▲ 不況のときには下請に一定の仕事を提供できない

下請構造の崩壊は...

日本の土地や人件費の高騰時代に親会社の海外進出が進んだころから進んでいたが、インターネットの普及により決定的となる。

④ 系統を超えた提携・合併

規制緩和やインターネットの普及により、世界中が一つの市場、一つの競争相手となった。

規制によって参入できなかった分野

外国資本が続々と参入

国内基準で事業してきた業界

世界的な基準に従うことが必要

金融分野

日本の金融業界では、大きな銀行は系列の頂点にあり、それを超えた提携などは考えられないことだったが、バブル崩壊や外国金融会社の進出などにより深刻な状況になってきた。また、金融技術・情報通信技術の著しい発展に対処するには多大な費用が必要となった。

系列を超えた提携・合併が行われ、ビック4に統合される。

三菱東京フィナンシャル、みずほフィナンシャル、三井住友銀行、UFJグループ

(日本版)金融ビックバン

金融業界での大改革を

という。

ご清聴ありがとうございました